



Are You Ready ? ～英語教育新時代とJET-ALT～

グローバル化がますます進展し、英語教育の重要性が高まる中、2020年度から新学習指導要領が本格施行される。小学校3・4年生で外国語活動が始まるとともに、5・6年生では外国語が教科化されるなど、まさに「英語教育新時代」が到来しつつある。本特集では、JET-ALTを活用して、英語教育に力を入れている自治体や私立学校を紹介する。Are You Ready? あなたの自治体では準備ができていますか?

〔(一財) 自治体国際化協会 JET プログラム事業部〕

1

福井県の外国語教育推進について

福井県教育庁義務教育課

小中高一貫した英語教育の推進

2017年度の文部科学省「英語教育実施状況調査」において、本県の中学3年生、高校3年生および中学校・高校の英語教員が、国が示したCEFR（外国語の運用能力を測るための国際的な指標）の基準に到達した割合は、いずれも全国1位であった。これらは、福井県の先人の英語教員が、英語教育の本質を見極め、国に先駆けて英語教育を改革してきた成果であり、また、2015年度に策定された「教育基本振興計画」において、「『使える』外国語教育の推進」を掲げ、さまざまな施策を推進してきた結果であるととらえている。

本県の英語教育は、小中高一貫した共通目標のもと、「意見・考えのやり取り」を重視している。

中学校・高校においては、1950年代から「読む」「書く」だけでなく、「聞く」「話す」といったコミュニケーションに重点を置いた英語教育と、授業そのものをコミュニケーションを行う授業改善に取り組んできた。

県立高校入試においては、1960年に全国に先駆けてリスニングテストを導入した。また、リスニングテストでは、相手からの問いかけに対して自分の考えを答えるという設問を取り入れ、話す力の評価にも取り組んできた。2018年度入試からは、「話す」力をより的確に評価するため、実用英語技能検定（英検）の結果に応じて

加点する制度を導入した。

このほか、①高校2年生100名を北米地域に派遣する海外語学研修、②福井紹介や身近な表現を盛り込んだ高校生用オリジナル教材の作成と配布、③目標を持って学習する中学3年生および高校1、2年生を対象にした外部検定受験料の支援制度などの事業を推進している。

不断の授業改善とそれに合わせた入試改革や県の施策の成果が今回の結果に反映されたものと考えている。

これらの施策に加え、2020年度の小学校における外国語教育の教科化に対応するため、2017年度に県教委で小学校用の指導案および教材を作成し、2018年度から全小学校で先行実施を行っている。今後も小中高が連携した英語教育を推進していきたいと考えている。

年度	人数	内 訳	年度	人数	内 訳
1970~1972	1	フルブライト	1989	45	JETプログラム
1973~1974	2	フルブライト(1) 県単(1)	1990	47	JETプログラム
1975	1	県単	1991	55	JETプログラム
1976	0		1992	61	JETプログラム
1977~1981	1	文部省	1993~1994	69	JETプログラム
1982	8	文部省(1) 県単(7)	1995	75	JETプログラム
1983	8	文部省(3) 県単(5)	1996	80	JETプログラム
1984	8	文部省(3) 県単(5)	1997	86	JETプログラム
1985	9	文部省(3) 県単(6)	1998~2008	87	JETプログラム
1986	30	文部省(3) 県単(27)	2009~2014	82	JETプログラム
1987	35	JETプログラム	2015	92	JETプログラム
1988	42	JETプログラム	2016	102	JETプログラム(100) 県単(2)
			2017	110	JETプログラム(106) 県単(4)
			2018	106	JETプログラム(100) 県単(6) ※私立高校のJET-ALT6名は各 学校が任用

本県におけるALT数の推移

外国語指導助手 (ALT) 受入れ

コミュニケーション型授業を推進するためには、ネイティブスピーカーの存在は欠かせない。特に福井のような地方の自治体では外国人と会う機会が限られるため、外国人指導助手を積極的に受け入れ、英語教育の改善・充実を図ってきた。

福井県での外国人指導助手の受入れは、1970年にフルブライト計画により派遣されたアメリカ人を受け入れたのが最初である。1987年からは「語学指導などを行う外国青年招致事業 (JET プログラム)」からの斡旋により「英語指導助手 (AET)」を受け入れてきた。人数の変遷は別表のとおりであるが、特筆すべきは、1986年に全国に先駆け、すべての県立高等学校に英語指導助手を配置したことである。また、その翌年には、私立高等学校にも各1名の英語指導助手を常駐させるようになった。その後、英語以外の外国語教員も含めて「外国語指導助手 (ALT)」と呼ばれるようになり、中学校への配置や国際化に関する学科を持つ高等学校への複数配置へと事業が拡大された。

2015年度からは、実践的な英語を話す機会を増やすために3年間にわたる増員を経て、2018年現在、県内中学校数と同数の75名を中学校に配置し、1・2年生で週1.5時間、3年生で週1時間のチームティーチングの時間が確保されている。高等学校31名 (うち義務教育課1名) とあわせて、計106名のALTを雇用している (私立高等学校においては、2018年度より各学校が任用団体となり、6校に1名ずつ配置)。なお、そのうち5名は、JETプログラムの5年間の期限を終えたのち、経験があり優秀な人材として、県独自に雇用了したALTである。

ALTの活用について

ALTの指導技術の向上のため、県が主催して研修を行っている。年1回の指導力等向上研修に加え、ブロックごとに年1回公開授業と授業研究会を行う。これらの研修では、各ALTが学校での実践について意見交換をしている。教室でのチームティーチングのほかに、英語掲示板作り、英検指導、放課後チャットタイム、給食時の教室訪問や校内放送など、各学校の実情に合わせて活用されている。

放課後チャットタイムを行っている学校では、放課後の20分間に少人数 (6～8人) グループで、あるトピックについてALTと話す時間を設けている。そのような経験を通して、生徒たちは英語学習に対する強い意欲を持つようになってきている。

近年は、ふるさと教育やキャリア教育の中で、地域を英語で発信する取り組みが行われるようになってきている。いくつかの中学校では、修学旅行の訪問先で、外国人に対して地元について英語でプレゼンを行っている。ほかにも、教育旅行などで来日した海外の高校生に、生徒が英語で地元を案内する学校、県内在住の外国人を学校に招き、英語による地域紹介を行う学校、町役場と連携して英語版の観光パンフレットを作成する学校などがある。これらの活動において、ALTは英語運用面のみならず「聞き手」の立場からもアドバイスを与えてくれた。

このほか、スピーチコンテストやディベート大会のジャッジ、中学校および高校の英語セミナーの講師、高校生海外語学研修の事前研修会での講師などとして、生徒が英語を発信する機会の増大に大きく寄与している。



放課後チャットタイムでALTと英会話する生徒たち

今後の目標

福井県でも少子高齢化に歯止めがかからず、製造業を中心に人手不足に拍車がかかり、今後外国人の労働力が多く流入する可能性がある。また、2023年に北陸新幹線の金沢～敦賀間が開業予定であり、外国人観光客の増加が期待される。地域の国際化は避けて通れない喫緊の課題であり、英語教育が担う役割は大きい。今後もALTを有効に活用しながら、発信型の使える英語力の育成を図っていきたいと考えている。

新見市の英語教育

本市は岡山県北部の山間地域に位置し、市立保育所・認定こども園・幼稚園 14 園所、小学校 17 校、中学校 5 校がある。「ふるさとを愛し、世界で活躍するたくましい子ども」の育成を目指して、小中で連携した英語教育や ICT を活用した教育を継続的に推進している。

2001 年度から ALT の任用を始め、現在 JET プログラムから任用した 12 名の ALT を全学校園所へ派遣し、英語教育の充実を図っている。2006 年度には、「国際交流を推進する新見市英語教育充実特区」（総務省）、2009 年度には、「教育課程特例校」（文部科学省）の指定を受け、本市独自のカリキュラムや教材を作成しながら、小学校 1 年生から 6 年生まで全学年に週 1 時間の外国語活動の時間を設けて、全国に先駆けて英語教育を進めてきた。

小学校外国語活動では 2018 年度より特例校指定を廃止し、1・2 年生は年間 35 時間（教育課程外）、3・4 年生は年間 35 時間、5・6 年生は年間 70 時間で新学習指導要領を先行実施している。小学校教員の授業力を向上させ、専門性の高い授業を行うために、3 年生以上のすべての外国語活動に ALT を配置し、担任もしくは英語専科教員が主導してチームティーチングで授業を行っている。

保育園等から中学校までの段階に応じた英語教育

本市では、子どもたちが幼児期からネイティブの英語にふれ、知識としての英語力だけでなく、確かな英語力と豊かな国際感覚を身に付けられるよう、環境を整えている。ALT や友達との交流を通して、言葉や心が通じ合うことに喜びを感じ、お互いを尊重する中で、自分の考えを表現できる実践的なコミュニケーション能力を身につけた子どもを育てたいと考えている。

新見市小中一貫英語教育のモデル校として、新見南中学校区の 3 小学校と 1 中学校が、効果的な授業とカリ

キュラムについて協同研究を行い、その成果を市内小・中学校に広めてきた。カリキュラムについては、新教育課程で英語を学んだ生徒が中学校に入学する際に、小学校での学習を活かし、中学校の学習に円滑に移行できるように、「中学校スタートプログラム」を作成した。授業研究においては学期に 1 回程度公開授業を行っており、昨年度は岡山県との共催で、新見南小学校を会場に授業研究会を開催した。研究会では 6 年生外国語活動のティームティーチングの授業を公開するとともに、本市の ALT 12 名が講師となり、市内外から参加した日本人教員を対象に指導力向上の研修が行われた。ALT は日頃の実践事例から、効果的な言語活動や文字指導、発音指導について紹介するワークショップを行い、教員の英語力、授業力向上に寄与した。

市内の各保育所・幼稚園・認定こども園へは年間 10 回程度 ALT を派遣し、英語に慣れ親しむ体験的な活動を行っている。子どもたちは ALT と交流することで、外国語や異文化にふれる楽しさを味わうことを体験している。中学校区内の保幼小中に、同じ ALT を兼務させることで、学校種間の連携を図りながら、系統的に指導をすることができている。また、子どもたちが保育園等から小学校へ、また小学校から中学校に進学する際、顔馴染みの ALT が引き続き指導することは、進級ごとに難しくなる英語の授業に対しての不安を取り除く効果もあると考えている。



電子黒板を活用した授業を行う ALT のイザベル氏

情報化・グローバル化に対応した 英語教育の推進

本市では英語教育と同様に、ICTを活用した教育やプログラミング教育にも力を入れ、児童生徒の論理的思考力および表現力の育成を図っている。ICTを活用した教育に取り組むために、市内全中学生に貸与したタブレット端末や電子黒板を利用した双方向の授業を積極的に推進している。

(1) ICTを活用した教育

本市では、全中学生および教員に貸与したタブレット端末（iPad）を外国語の授業においても活用している。タブレット端末、電子黒板を用いて、意見交換、発表、インタビューなどを行い、プレゼンテーション能力や表現力を身に付けている。また、タブレット端末を用いて、ALTがインタビュー形式のパフォーマンステストを行うなどの取り組みも行っている。



タブレット端末を使用したパフォーマンステスト

(2) 新見市英語学習表現発表会

中学生が日頃の学習の成果を発表する場として、新見市教育研修所中学校英語部会が主催して、新見市英語学習表現発表会を開催している。毎年、発表会ではタブレット端末を用いた地域の紹介、自分の夢についてのスピーチ、落語など、自分の伝えたいことを生き生きと表現する姿が見られる。昨年度は地元の高校生がデモンストレーションスピーチを披露したり、小学生がALTと対話形式でスピーチをしたりするなど、小中高が連携した取り組みも行われた。ALTは児童生徒のスピーチ指導や会当日のウォームアップゲームの企画、モデルパフォーマンス、スピーチの講評を行うなど、児童生徒の学ぶ意欲を高める取り組みに貢献している。

(3) プログラミング教育

本市はソフトバンク株式会社が実施するPepper社会貢献プログラム（スクールチャレンジ）に参加し、Pepperをプログラミング教育に活用している。Pepperのプログラミングソフト「コレグラフ」は英語で構成されているため、ALTからの支援も有効である。プログラミングやコンピュータ操作が得意なALTは、勤務校の要請に応じて、プログラミングの授業や本市のプログラミングコンテストに向けての取り組みに積極的に関わり、児童生徒を支援している。

また、新見第一中学校の生徒がワールドロボットサミット2018（経済産業省主催）に出場した際は、大会の共通語である英語を用いてpepperに話をさせたり、生徒がプレゼンテーションを行ったりしたが、ALTが準備に積極的に関わり、出場に向けて生徒を支援した。参加生徒は、海外からの出場者と交流する中で、英語は大切なコミュニケーションのツールであることを知り、ますます英語学習への意欲を高めている。

今後に向けて

グローバル化が進む社会の中で外国語によるコミュニケーション能力が求められている。近年、日本に多くの外国人が訪れているが、本市では外国の人や言語に出会う機会はまだ少ない。ALTは、学校や地域で子どもたちに生きた英語とさまざまな文化を体験させてくれる貴重な存在と言える。

今後もALTを有効に活用しながら、将来を見据え、広い視野に立ち、世界に羽ばたく子どもを育成していきたい。



新見市英語学習表現発表会

十島村とは

十島村（としまむら）を理解していただくには、村の特別な環境や正確な位置などを知っていただく必要がある。このことなくしては、なぜ ALT が小さな村に 5 人も必要なかわからないのではないかと思います。

十島村は、人口 698 人で、屋久島と奄美大島の間にある島、トカラ列島と呼ばれる。北から口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島の有人 7 島と無人 5 島の、合わせて 12 の島々からなる。南北 160km に及ぶ、人が常時居住している地域としては、「日本一長い村」である。また、数ある離島自治体の中でも、孤立型、多島村という極めて厳しい環境にある。役場本庁は、鹿児島市内。各島には出張所があり、島での業務は出張所長が行っている。

島々は大海原に隔絶され、たいへん厳しい自然環境にあつて、最後の秘境とも呼ばれている。村は、琉球文化と大和文化の接点と呼ばれ、今なお独特の祭事や郷土芸能が伝承されてきている。

このような島々を結ぶのが、フェリー「としま」である。船は、1,953 トン、全長 93.47m で、定員が 297 名である。毎週月曜日と金曜日の週 2 回の航海で、この船が唯一の村への交通手段である。

十島村に ALT を

十島村では、「南北 160km 心をつなぎ 気概に満ちた 十島の教育」を基本方針としている。気概とは、困難にくじけない強い意志ということである。まさに本村の教育環境そのものである。村には高等学校がない。そのため、中学校を卒業すると必ず島を離れなければなら

ない。「15 の島立ち」である。それまでに、先生方は厳しい自然に負けない子どもの育成や将来「15 の島立ち」を希望に満ちたものとするべく、熱心に指導している。

7 つの島には、児童生徒数が 6 人から 20 人の小中学校併設の学校が 1 校ずつあり、今年度は村全体の児童生徒数 88 人に対して、教職員数 66 人が配置されている。どの学校も、極少人数学級のため個別指導はともに行き届いている。その結果、子ども一人一人の課題をすぐに把握でき、即指導ができるという利点がある。

一方で、ほとんどの学級が複式学級で同学年の子どもが少ないことから、自分の考えを発表し、友達から感想や意見を聞く場面が少ない。それを補完する手立てとして、TV 会議システムを活用した授業を行っている。役場と各島を結んでのカナダ人講師による英語学習、各島の同学年による道徳や国語、数学などで自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、思考力やコミュニケーション能力などの育成に努めている。

また、月に一度の土曜授業では、全部の島をつないで全島朝会「トカラ集会」も実施している。このことにより、離れて学んでいる子どもたちの一体感を持たせるようにしている。

このような中であつて、新学習指導要領では、小学校において 3・4 年生が外国語活動、5・6 年生が外国語として新たに実施されることになった。それに伴い英語教育推進リーダーによる研修が実施されるなどしているが、地理的条件などによりなかなか受講が叶わない。また、期限付教諭が 3 分の 1 を占め、正規の英語の教諭がいないため、思い切って各島に ALT を活用した授業の充実を図ろうと考えたわけである。

ALT の活躍について

ALT は、派遣されたそれぞれの学校で、児童生徒に熱心に指導をしていただいている。それだけではなく、島の住民とも親しくなり、地域の活動にも参加したり、フェリーの到着時には、住民と一緒に作業をする人もいます。ここでは、その一部を紹介する。



- (1) 口之島小中学校－小学校外国語の授業は、基本的には教育課程にそって行い、時には、ゲームを通して英語表現の習得に向けて指導している。また、初めての日本での祭り（地域の夏祭）に、奥様と一緒に甚平と浴衣着用で参加した。
- (2) 中之島小中学校－学校の文化祭で子どもたちと劇に参加し、劇中で英語の歌を教え合って歌うことにより、心を通わせる様子を表現した。また、「未来の夢の時間割」という活動で、アメリカの小学校の様子や教科について英語で紹介し、興味をさそった。
- (3) 諏訪之瀬島小中学校－口之島のALTが来校し、職員研修で学習指導要領の外国語の目標および内容の確認をしたり、「We can!」について学び、それを使って、授業の流れを英語の教諭と共に披露した。また、中学生2名の授業では、ファストフードの店員と客の役割を交互に分担し、日常会話の練習を指導した。
- (4) 平島小中学校－中之島のALTが来校し、指導をしている。波の影響で来校できない時には、TV会議システムにより実施している。
- (5) 悪石島小中学校－アメリカの文化であるハロウィンについて英語のみで授業を行い、本場のハロウィンを伝えつつ、英語での受け答えを伝えながら、中学生にスピーチ力やリーディング力を身に付けさせる指導を行っている。来日2か月目からは、「I Love English」の掲示ボードを作り、英語に親しんでもらう工夫をしている。児童生徒も変化し

ていくボードを通るたびに見ており日常的に英語に触れる機会を作っている。

- (6) 小宝島小中学校－チームティーチングを英語教諭と協力して行い、効果的な指導に心掛けている。研究授業では一緒に関わり、当日はTV会議システムにより他の島へも公開している。また、週1回地域の多世代交流施設に出向き、高齢者とのふれあい活動にも関わっている。高齢者も朝の挨拶は「グッドモーニング」から始まっている。
- (7) 宝島小中学校－小学生にさまざまな食べ物の言い方とレストランでの注文のやり取りを指導している。その際、正しい発音やスムーズなやり取りについて練習させている。

5人のALTの仕事ぶりは、各学校の校長より1週間ごとの活動内容について教育委員会に報告してもらっている。そのため、その週どのような仕事ぶりであったかは、十分に把握できるようにしている。

今後に向けて

これまで述べてきたように、ALTの存在は学校のみならず島そのものにとってもたいへん大きな存在である。少ない人口にとって、共に助け合って生活していくという大きな担い手にもなっている。

あるALTは、朝の通学路で子どもたちの見守りをしている。また、ある人は、盆踊りの踊り手の輪に自ら入って踊っている。5人がそれぞれの島に打ち解け、明るく毎日を送っているということを聞き、ありがたく思っている。将来的には、島全体に英語が飛び交い「グッドモーニング」が普通に会話の中に出てくることが夢である。

今年は、あと2名の配置を考えている。これで7島全部に配置できる

こととなる。新学習指導要領が実施される来年度からは、ALTによる授業が本格的に行われていくこととなる。今から大変楽しみである。



中之島小中学校での文化祭の様子



ロールプレイで日常会話を練習する様子（諏訪之瀬島小中学校）

増える私立学校での活用

近年では、私立学校で JET-ALT（外国語指導助手）を任用する例が増えてきており、今年度は 165 校で 254 名が ALT として活躍している。ALT は英語の授業はもちろん、それ以外の時間（昼休みや放課後、課外活動など）に生徒とコミュニケーションをとったり、海外姉妹校との交流促進の役割を担ったりと、さまざまな形で活躍している。

ここでは、JET-ALT を任用している私立学校を 2 校取り上げ、どのように ALT が活用されているかを紹介する。

私立学校における JET 参加者の任用の推移

	学校数	参加者数
2015 年度	106	159
2016 年度	128	189
2017 年度	147	219
2018 年度	165	254

各年度とも 7 月 1 日現在

都道府県別の私立学校における JET 参加者の任用状況

	学校数	参加者数		学校数	参加者数		学校数	参加者数		学校数	参加者数
北海道	7	7	群馬県	2	2	山梨県	2	2	徳島県	1	1
青森県	3	3	千葉県	1	1	岐阜県	1	1	香川県	1	1
岩手県	3	3	東京都	104	188	静岡県	6	6	愛媛県	2	2
山形県	2	2	新潟県	1	1	京都府	1	1	福岡県	1	2
福島県	2	3	富山県	7	7	兵庫県	3	4	大分県	2	3
茨城県	4	4	福井県	6	6	鳥取県	3	4			

2018 年 7 月 1 日現在

※学校法人において JET-ALT を任用する際に、都道府県から雇用経費などへの支援を受けられる場合がありますので、各都道府県私学担当課にお問い合わせください。

1

JET-ALT 任用が本校の英語教育にもたらした効果とは

私立 富士見丘中学高等学校 英語科主任 町田 寛末

富士見丘中学高等学校の英語教育

東京都渋谷区に中高一貫の女子校を置く本校は、21 世紀を生き抜く真のグローバル人材として必要な能力や資質、すなわち「グローバル・コンピテンシー」を育てることを教育理念に掲げるスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校である。英語教育においては、4 技能教育を土台としたコミュニケーション能力の育成を目指し、生徒へのきめ細やかで徹底した指導を日々行っている。

本校では、2015 年度より 2 名の JET-ALT を任用している。以前から専任の外国人講師 4 名を直接雇用し

ていたが、英語 4 技能教育の体制をより一層強化するために外国人講師の増員が必要となり、東京都からの財政支援がある JET プログラムの ALT の任用を始めた。そして今では JET-ALT が本校の英語教育に欠くことのできない大きな存在となっている。例えば中学の授業では、週に 2 回、既習文法や単語を用いた活動を考案して実施してもらっている。新しい文法や表現を学習した直後に活動で使う機会を持たせることで、新しい学びによって自分の表現できる世界が確実に広がることを実感してもらおうことが狙いだ。また高校では各レッスンのテーマに関するディスカッションの仕切りやプレゼンテーションの指導を担当してもらい、授業内でのスピー

キング活動のより一層の充実を図っている。授業以外にもホームルームや放課後などの生徒の生活の場にも JET-ALT に登場してもらうことで、授業で学んだ英語を実践で使ってみることのできる環境を豊富に生徒たちに提供することが可能となった。

ALT によるライティング指導の成果

本校の JET-ALT は授業でのチームティーチングのほか、毎日の各ホームルームへの訪問、英検 2 次試験面接練習、放課後 20 分英会話などさまざまな活動を行っている。また、SGH 課題研究発表会や校内外の英語スピーチコンテストの原稿のチェックや発音指導など、その活躍の場は多岐に渡る。だが全ての活動の中で最も貢献度の高いサポートは、週末エッセイライティングの添削であろう。具体的には中学 1 年生から高校 2 年生までの全 5 学年が、設定されたテーマに基づいて作成する全てのエッセイを、2 名の JET-ALT が中心となり毎週丁寧に添削している。英語の間違えを正すにとどまらず、全体の構成に関する改善点についても詳細に示してもらえるため、生徒たちは回を重ねるごとにエッセイライティングの力が上がっていく。本校の生徒は英語 4 技能が全体的に伸びているが、中でもライティングの伸びは著しく、昨年度末の GTEC (ベネッセコーポレーションが実施する英語 4 技能検定) では、本校の中学 3 年生のライティング平均点が、全国の高校 3 年生のそれを超えるという成果を上げた。これはまぎれもなく週末エッセイライティングの添削を受け続けた効果であり、JET-ALT のサポートなしには成しえなかった飛躍と言えるだろう。

ALT が及ぼす影響

JET-ALT は授業などでの活躍だけでなく、その存在そのものが周囲に良い影響を与えている。JET-ALT 任用に伴い、日本人英語教員がネイティブ教員と組んで授業を実施する機会が増え、日本人英語教員とネイティブ教員との

間には日々連携が必要となった。その結果、日本人英語科教員とネイティブ教員との風通しが良好になり、それが授業内容の向上にもつながった。また JET-ALT は全てのホームルームに順番で回って行くため、英語科教員以外の教員とも交流が増え、このことが生徒に英語を話す勇気を与えることにもつながった。本校の JET-ALT は日本語を話せないためコミュニケーションは全教員が必然的に全て英語で行うことになる。日本人教師が時に言葉に詰まりながらも JET-ALT と英語で会話をする姿を見て、「先生と同じように間違ってもいいから英語を話してみよう」、という気持ちが生徒の中に沸いている。これも JET-ALT による大きな効用の一つと言えよう。今後も英語 4 技能をより一層強化するため JET-ALT と協力しながら充実した授業づくりに取り組んでいきたい。



ALT とカードを使って英文を作るアクティビティをしている様子



ALT とゲームをして楽しむ生徒たち

ALT の活用方針

国際化と技術の発展にともない言語を取り巻く環境も日々変化している。その影響を受け変化し続ける言語教育において、ALT を採用し、効果的な授業を展開していくことは簡単なことではない。そのような中で、私立学校が県からの補助を受けられるようになり、本校も2016年にALTを採用することになった。これは本校初の試みであり、南アフリカ共和国出身の言語学で修士号を取得した有能な方を迎えることができ、3年目に入った。ALTの活用の難しさを見聞きしてきたため、当初から教科内では「(ALTの)主体性」と「Authentic(本物、本場)」にこだわった活用という方針が共有されている。

ALTの主体的な3つの取り組み

その方針のもと、ALTに任せていることが3つある。1つ目は、「English Board」だ。廊下の掲示板を利用して、進学コースの生徒たちと一緒に作った『NEWS LETTER』を掲示している。題材は「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業で扱ったものが中心で、生徒たちがALTと共に空き時間を利用して作り、貼り出す。昨年は、3年生が校内展覧会を開催するまでになった。この活動は、ALTが生徒たちとの日程調整、文章添削、掲示を行っている。生徒たちはALTとの作業の中で、英語への抵抗が薄れ、さらに「発信」することで表現することへの意欲向上につながっている。

2つ目は、各学年で行われている「Warm Up」だ。これは、各授業10~15分程度で会話表現を学ぶもので、学年を追うごとに内容が高度になっていく。ALTは場面設定から台本、小道具準備まで全てを行う。1年目は、対話を練習し、定着のためのゲームを行う。2年目は、海外旅行をテーマに、設定された場面を台本に沿ってロールプレイする。小道具やBGMにもこだわり、演技指導(遠くを指さして、“Over there.”等)もする。1つの場面に対し、台本理解、ロールプレイ、ゲームという順で3コマを使い、帰国までを疑似体験する。3年目

は、このテーマや場面は変わらないが、自分たちで台本を作り、演じる。しかし、ロールプレイ内で乗り越えなければならない課題(飛行機がキャンセルになり帰国できない等)が与えられ、2年目に学んだ台本通りにはいかないという仕掛けになっている。そのため、生徒たちはアイデアを具現化するためのAuthenticな表現にこだわりを持ち始め、完成度が年々高くなってきている。

3つ目は、ALTの母国の紹介だ。テーマは多岐にわたり、学校生活や食文化、歴史や言語と教科書で題材になっているものから広げている。それに応じて、ALTの家族や友人が実際の学校や生徒たちの映像を送ってくれたり、意見交換をしてくれたりしている。これをするにより、「教科書の向こうにあるもの」だけでなく、生徒たちは+αのAuthenticなものに触れることができている。

今後こだわった英語教育を

このように、これらを各科目チーフと話し合い、さらに9人の担当教員と打ち合わせをして授業に臨むため、本校のALTは忙しい!「Assistantだから」と受け身になるのではなく、「先生」として主体性を持って取り組むことで、言語だけではなく、その背景にある文化や考え方などのAuthenticが活動にはちりばめられている。これこそ「ALTにしかできないこと」だ。その中で、生徒たちはそのAuthenticに魅力を感じ、主体的に学ぶようになった。言語教育に求められることは今後も変わり続けていくだろう。しかし、これからもこだわりを持って、自ら学ぶ生徒たちをともに育てていきたい。



English Boardの前で11月号を担当した生徒たちとALT

JET を支えるプログラムコーディネーター

JET 参加者の任用にあたっては、「参加者に対する生活面でのサポート体制を強化したい」、また、「学校側とのコミュニケーションの仲介者がほしい」などの声がかけられる。

そのような中、参加者の地域における生活や業務上の連絡調整の円滑化を支援するため、プログラムコーディネーター（PC）を活用している自治体がある。ここでは、PC の活用や PC 業務の委託により、JET 参加者の支援を行っている次の 3 つの自治体を紹介する。

- ① 広島県福山市（ALT 任用数：21 名）元 JET-ALT を独自採用
- ② 長崎県大村市（ALT 任用数：13 名）日本人 2 名が他業務と兼務
- ③ 静岡県吉田町（ALT 任用数：4 名）PC 業務を民間企業に委託

JETプログラムコーディネーターの活用事例

コーディネーター業務例(専任・兼任共通)

【生活全般の支援例】

- ・電気、ガス、水道、携帯電話等の手続き
- ・学校への送り迎え（来日当初）
- ・銀行の手続き、病院の紹介
- ・運転免許更新

JET-ALT
の生活と
業務の調
整を丁寧
に支援！

【各種業務の調整支援例】

- ・学校とJET-ALTのスケジュールについて
- ・市主催行事への参加について
- ・市民英会話教室の講師について

専任で雇用している例

1日7時間
週5日勤務
※外資系企業経歴
海外在住経験有

【学校外での活動支援】

- ・イベント参加の調整支援
- ・小中学生対象5日間集中プログラム
- ・小1～4年対象Summer English Festival)
- ・市民運動会等での交流促進支援

JET-ALTの声

・コーディネーターのおかげで、先生方との打ち合わせ内容がよく理解できて助かった！

・コーディネーターに手伝ってもらい、着任後2、3日でインターネットが開通。家族の顔を見て話ができ、ホームシックも乗り切れた。

・旅行中に困った時コーディネーターが助けてくれた。

・特に病気の時は、コーディネーターがいると相談しやすい。

兼任で雇用している例

【生徒の英語力向上に向けて】

～異校種や複数校における支援～

- ・要望に応じた学校訪問の調整支援
- ・英語使用機会増加のため、授業への複数のJET-ALT配置の調整支援
- ・CLIL授業※の実施に向けた調整支援
- ※内容言語統合型学習。理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習のこと
- ・スピーチコンテスト練習会実施に向けてスケジュール調整支援

JETプログラムコーディネーター業務以外は教育委員会勤務

他職種の臨時職員経験有。海外在住経験無

**-週5日勤務、臨時職員
-教育委員会の事務を担当**

※普通のコーディネーター業務は1日2～3時間程度
※来日直後の1～2週間は、ほぼ終日コーディネーター業務

【JET-ALTの意識向上、授業改善に向けて】

～研修の充実のための支援～

- ・授業観察と事後指導の支援
- ・日本人教員とJET-ALTとの定期的な打ち合わせの実施支援

- ・服務規律研修、授業力向上研修開催の支援

※市町村が PC を任用する場合、その経費（任用・業務委託などに係る経費）の約 50 %が特別交付税の対象となる（経費×財政力補正係数× 0.5）。

自治体国際化フォーラム | MARCH 2019 VOL. 353 11

福山市における ALT の活用状況

本市教育委員会では、行動化できるより確かな学びの実現に向け、全ての子どもたちが学ぶことの面白さを実感し、興味関心を持って学び続けようとする力を育むため、「子ども主体の学び」づくりに取り組んでいる。

外国語教育においても、現在、12 か国から 21 人の ALT を雇用し、幼稚園、小学校、中学校へ派遣するなど、さまざまな場面で ALT を活用することで、子どもたちの学習意欲、知的好奇心を喚起しながらコミュニケーション能力を育成するとともに、国際的視野を広げる機会の充実を図っている。

ALT は、学校で担任や教科担当教員とのチームティーチング体制による外国語活動や英語科の授業を行い、ネイティブの発音や表現のモデル、児童生徒が英語でコミュニケーションを図る相手となっている。また、授業以外でも児童生徒が英語で会話をする機会をつくるために、給食時間や休憩時間を一緒に過ごしたり、部活動、学校・地域行事に参加したりするとともに、児童生徒が外国の多様な文化・伝統に触れることができるよう校内掲示物を作成するなど環境づくりに努めている。

校外での活動としては、小学生を対象とした英語ワークショップの企画・運営、中学生英語暗唱・スピーチコンテストに向けた指導やコンテストの審査、小学校教員を対象とした外国語活動実践研修のサポートなど、幅広く活動し、本市の外国語教育、国際理解教育の推進において大きな役割を担っている。

JET-ALT 経験者の雇用

12 か国から招聘した JET-ALT の生活をサポートするとともに、外国語教育の推進において彼らの能力を効果的に活用するために、豊富な指導経験と外国語教育への理解を兼ね備えた JET-ALT 経験者を雇用することとした。

この ALT は、ALT として学校での授業をする傍ら、週 2 回は市教委事務局で業務を行い、ほかの JET-ALT のプログラムコーディネーター（PC）役も担っている。

JET 経験者が PC となることで、自らの経験や指導のノウハウを生かして ALT をサポートしたり、事務的な手続きなどを円滑に行ったりすることができ、市教委担当者の業務軽減はもとより、効率的な業務遂行につながっている。

PC の主な業務は、次のとおりである。

- ① JET-ALT の受入れおよび任用期間満了などに係る業務
- ② オリエンテーションや研修の実施
- ③ 勤務実態把握・指導および書類整理
- ④ ALT の派遣計画立案および派遣校との連携
- ⑤ 外国語教材作成および研修企画・実施の補助
- ⑥ 外国語スピーチコンテストを始め、外国語教育推進に係る業務への協力 など

特に、毎週金曜日の午後は、ALT 全員が市教委事務局に集まり、研修や事務連絡などのミーティングを行うため、その企画運営をほぼ担い、大いに活躍している。

そのほか、来日直後の生活支援、日常生活へのアドバイス、教職員との連携、日々の授業づくりへの助言など、ALT の相談役として悩みや不安の解消にも努めている。

また、本市が進める教育施策を理解し、取組などの趣旨を英訳して ALT に伝えるなど、ALT と市教委担当者が円滑にやり取りするための潤滑油的な役割も果たしている。さらに、勤務外の場においても ALT が孤立することがないように、会食、観光名所の案内、プロ野球観戦の呼びかけなど、日本の文化・伝統、福山ならではの行事・風習に触れる機会をつくっている。

このように、JET-ALT が PC としての業務や ALT に寄り添ったさまざまなサポートを行っていることが、ALT の効果的な活用、ひいては本市における外国語教育の推進につながっている。



PC のシドニー氏

2

ALT コーディネーターという大きな存在

長崎県大村市教育委員会 高柳 智恵

ALT と日本人のコーディネーター

世界初の海上空港を有するわが大村市。「花と歴史と技術のまち」をうたっており、長崎県下でも人口が増加している数少ない市の一つである。そんな大村市には13名のALTがいる。世界では色々な国で英語が話されていること、英語といえども国が違えば同じ単語でも発音が異なっていることなどを学んでほしいと思い、できるだけ違う国出身のALTが指導にあたるようにしている。

7年前、本市はALTの人数を6名から13名に増員し、同時にコーディネーター（日本人）を2名採用している。

コーディネーターの役割

主な業務としては、(1) 市内小中学校におけるALTの勤務に関する連絡・調整 (2) ALTの日常生活の支援・指導である。

まず、(1) についてである。本市には小学校15校、中学校6校の計21校がある。2020年度から、小学校中学年で外国語活動、高学年で外国語科がスタートすることを見据え、昨年度から、中学校だけでなく小学校全校に13名全員が勤務し、外国語指導助手としてHRTと共に授業を行っている。それぞれのALTが勤務する学校は、住居の場所にも関係するが基本的に所属する中学校区を優先し配置している。また、普段の授業に加え、定例で「ALT訪問」と題し、希望する小中学校や公立幼稚園へ数名のALTが訪問し、園児や児童生徒と一緒に英語活動や季節の行事を楽しむ取組がある。その際、訪問するメンバーや時間などの調整や訪問先との打ち合わせを行い、ALTへその内容を伝えている。このような取組や学校行事などを考慮し、長期休業中も含め、毎月各ALTのスケジュール表を作成・送付し、市教委、ALT、各学校の3者が管理、確認できるようにしている。

次に(2) について。来日前は①住居・家具の確認、②不動産会社との連絡、来日後は①転入届などの手続、②銀行口座の開設、③生活用品の買い出し、④住居の修理、⑤家電の修理、⑥携帯電話やインターネットの契約・解

約、⑦ごみの回収、⑧悩み相談、⑨病院受診の際の付き添い、⑩各種保険契約補助、⑪事故・盗難発生時の対応、⑫運転免許取得の際の付き添いなどをおこなっている。

縁の下の力持ちとして

2人のコーディネーターに、そのやりがいなどについて聞いてみた。「ALTが配属校で優れたパフォーマンスをすることにより、『大村市の児童・生徒が質の高い英語教育を受けることができる』ことを目標に、コーディネーターの仕事をしている。ALTの生活面が安定し、大村市民の一員となり地域に溶け込みながらALTとして生き生きと仕事をしている姿を見ると嬉しくなる。」ということだ。先日、月1回開催しているミーティングで、あるALTが、「本市に配属されたALTは、九州の中でも一番幸せだと思う。」と語っていた。それが、全てを物語っていると思う。昼夜を問わない対応を求められながら、その都度親身になって寄り添う姿は、言葉や文化の違う日本で暮らすALTにとって、心強い存在であるのは間違いない。授業の進め方、学校に対する考え方、また日常生活でのちょっとした戸惑いなど、うまく伝えられない思いを代弁してくれる存在は、かけがえのないものだ。先のコーディネーターの話にあるように、それぞれのALTが、本市の児童生徒のため、存分に力を発揮できるよう今後も細やかなサポートを続けていきたい。



長崎空港での新しいJET参加者の出迎えの様子
(前列の右端と左端がコーディネーター)

町内全小中学校への ALT の配置と プログラムコーディネーター(PC)の任用

静岡県吉田町では、2016年度までは4校を対象に1名のALTを民間に委託していたが、2018年度からの学習指導要領の先行実施を見据え、2017年度より全小中学校に1名ずつ、計4名のALTを配置している。

ALTの増員に際して、経験を有する民間のALTを2名と、国際交流の発展を図り語学指導などを行う外国青年招致事業であるJETプログラムのALTを2名配置し、共に研修を積むことでALTとしての力量を付け、児童生徒の英語力を向上させることのできる体制とした。

また、ALTを町で採用するにあたり、受入体制の整備やJET参加者への情報提供、任用規則の説明および生活面のサポートなど、英語が堪能で授業や外国人の受け入れに専門の知識がある方の協力が必須であった。

そのため、2017年度は元高校教師（英語科）を任用し、2018年度はALT受入業務の経験を多く有する民間会社に業務を委託している。

PCの具体的な業務

(1) 各学校配置前（入国前）の主な業務

①渡航前のメールのやり取り、②受入時の各種手続き（役所関係、口座開設等）のサポート、③生活面（電気・ガス・水道などの開始時の手続きや立ち合い、買い出しなど）のサポート、④各種書類の作成、⑤連絡事項の伝達など

(2) 各学校配置後（着任後）の主な業務

①授業参観、②授業準備の手伝い、③教員との打ち合わせ補助、④学校教育課や各種機関からの連絡事項の伝



吉田町英語教育研修会の様子
授業の目標や先生方の話題を通訳し、ALTと先生をつなぐ。
授業と研修をつなぐ。小学校と中学校をつなぐ。

達、⑤生活面（病院の付き添い、買い出しなど）のサポート、⑥必要に応じて通訳、⑦ALT連絡会やALT研修会の日程調整、⑧ALT民間委託会社との連絡業務、⑨カルチャーショックの相談および対応など

(3) 帰国前の主な業務

①アパート等解約手続きの補助、②生活用品の処分や引継ぎのサポートなど

PC任用による効果

ALTからは、「学習面では学校の先生に助けを求めることができるが、生活や病院のことなど誰に頼ってよいか不安だった。PCがいることで、気軽に相談ができて助かった。」「“本音”を言うことがなかなかできずストレスだったが、英語で本音を言うことができて嬉しい。」という声が聞かれた。生活習慣や文化の違い、言葉の問題などが軽減され、ALTが安心して仕事に専念でき、児童生徒の教育的効果へと繋がっていると考えている。

	9:00	12:00	15:00	18:00
学校訪問時	← 授業参観・打ち合わせ →		← 報告書作成等 →	
繁忙期(ALT受け入れ時)	← 入居時各種手続き（電気、ガス）、口座開設、役所手続き（転入、年金、保険等）サポート、買い出し →			
学校教育課勤務日	← ALTへ連絡事項伝達、書類作成等 →			

吉田町英語プログラムコーディネーターの一日の流れ

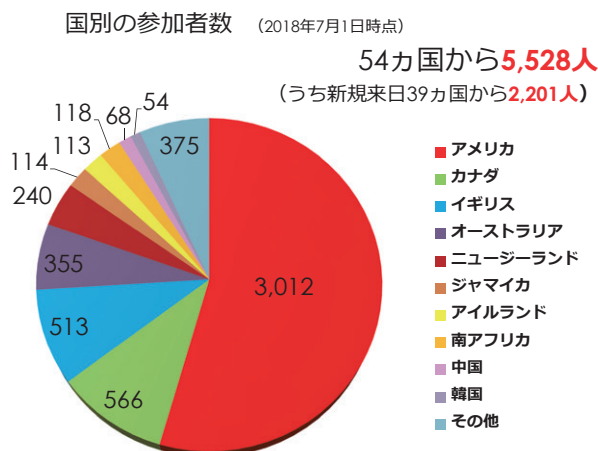
JETプログラムの概要・申込方法などについて

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

JETプログラムの概要

JETプログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme : 語学指導などを行う外国青年招致事業) は、外国語教育の充実、諸外国との相互理解の推進、地域の国際化を目的として、総務省、外務省、文部科学省、クレアの運営協力のもと、地方自治体などが在外公館における募集・選考を経た外国青年を任用する制度である。

外国語指導助手 (ALT)、国際交流員 (CIR)、スポーツ国際交流員 (SEA) の3つの職種があり、1987年の事業開始以来、73か国から6万8千人を超えるJET参加者を招致している。



現在のJETプログラム参加者数

必要な経費と財政措置

JET参加者1人につき、報酬や社会保険料(雇用主負担分)、傷害保険負担金などとして合計415万円(1年目)~485万円(5年目)のほか、活動に必要な旅費などを予算計上する必要があるが、市町村に対しては、JET参加者数に応じ、1人当たり472万円の普通交付税が加算される措置(密度補正)などの財政措置が講じられている(不交付団体は除く)。

2020年度の配置に向けて

任用団体が配置の際の要望として指定できる項目には、国籍や自動車運転免許の有無など10項目ほどあり、その中から優先度の高いものを挙げてもらったうえで、クレアが全任用団体間での調整をしながら、できるだけ多くの要望を満たすようにあっせんする。

2020年度の配置を希望する自治体や私立学校におかれては、要望期限(表1参照)までに取りまとめ団体(都道府県・政令指定都市国際交流担当部局)を通じて自治体国際化協会までご要望ください。

※2019年度の配置要望はすでに受付終了。

	4月来日	9月来日	
		英語圏	少数招致国
要望調査通知 (クレア→ 取りまとめ団体)	2019年 8月	2019年 9月	2019年 9月
要望締切 (取りまとめ 団体→クレア)	2019年 10月	2020年 1月	2019年 12月
あっせん通知 (クレア→ 取りまとめ団体)	2020年 2月	2020年 4月	2020年 5月
JET 来日日	2020年 4月	2020年 9月※	

※2020年の夏に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることに伴い、2020年は9月に来日する(例年は7、8月に来日)。

表1 2020年度におけるJET任用までのスケジュール

【要望先・問い合わせ先】

(一財)自治体国際化協会

JETプログラム事業部 調整課

電話: 03-5213-1727 メール: assen@clair.or.jp

